

リーブラ便り

2011年5月号 VOL. 24



リーブラのマークは、「男女平等」の願いをこめた「てんびん座（リーブラ）」をモチーフにしています。

目次

1. 男女共同参画週間記念フォーラム2011
 2. フォーラムでの新しい取り組み
 3. 講座案内
 4. 講座報告
 5. 平成23年度 第1回 利用者交流懇談会
 6. 運営協議会
 7. リーブラ相談室
 8. 男女平等参画情報
- ★別紙 5月の新着図書ご紹介

1. 男女共同参画週間記念フォーラム2011

住民の皆さんにリーブラを知らせるチャンス!!!

昨年、一昨年とリーブラ近隣にお住まいの皆さんにアンケートを実施しました。その結果、6割の人が「リーブラを知らない」

「知っているけど利用したことが無い」と答えました。その方々のリーブラに対するご意見を聞いてみると「気軽に参加できる機会を提供してもらいたい」「子育てに関することをやってほしい」「何をやっているところかわかりやすくPRして欲しい」等、たくさんのご意見をいただきました。

一方でリーブラが掲げる「すべての人が性別にとらわれず自分らしく豊かに生きる」という理念には強く共感されています。

6月18日&19日 フォーラム開催!!

30年の歴史を持つリーブラですが、まだまだ区民の皆さんへの働きかけが十分とはいえません。このような状況を少しでも打破し、男女平等を身近な問題として理解してもらおうと、6月18日と19日男女共同参画週間記念「フォーラム」が実施されます。

気軽に参加できる新企画!

例年に無い、新しい企画があります。子どもと一緒に参加してもらうための「子どもの広場」、講師の話を聞いて知識を得たり、考えたり。他にもワークショップで参加者自ら話したり、踊ったり歌ったり。そんな中で男女を問わず「幸せに生きる」ことについて、考え、感じ取ってもらえたらと思います。

すべての企画は利用者の代表として自主的に参画した企画運営委員の皆さんが数ヶ月にわたり、準備してきました。3月の東日本大震災の後、企画を見直す場面もありましたが、いよいよ本番に向けて準備完了。

何度も来館くださった方も、初めてリーブラに足を運んでくださる方も、たくさんの皆さんの参加をお待ちしています。

東日本大震災で被害にあわれた方の気持ちに寄り添って!!

フォーラムの開催に当たっては、震災の後、実施するべきかどうかという議論もありました。その中で、女性センターの果たす役割として「男女が平等な社会を目指す活動の歩みを止めてはいけない」



「女性センターができることはなんだろう」ということで、主講演を「みんなで生き延びるために」というテーマで落合恵子さんをお願いしました。また、港区の防災について考え、3月11日以降感じたこと、経験したことを共有し、地域でのつながりを深める機会もあります。実行委員会が主体となって義援金を集めます。集まった義援金はもりおか女性センターに送られ、震災の被害を受けた方のために、きめ細かな対応に使われる予定です。

2. フォーラムでの新しい取り組み

(1) 子どものひろば

【小学生対象】

お子さま連れの皆さまに、安心してゆっくりフォーラムに参加していただくために、小学生を対象にした「子どものひろば」を開設します。保護者の皆さまは、子どもたちをひろばにあずけてフォーラムに参加できます。

リーブラの活動団体が、各々の得意分野を活かして、楽しいイベントを企画しています。



【子どものひろばプログラム】

6月18日(土)

- ① 12:30~13:30 ヒップホップ
- ② 14:00~14:30 マジック
- ③ 15:00~15:30 読み聞かせ
- ④ 16:00~16:30 なぞなぞ大会
- ⑤ 17:00~17:30 人形劇&歌声

6月19日(日)

- ① 10:30~11:00 ガザ展示見学会
- ② 11:00~11:30 歌声
- ③ 12:00~12:30 マジック
- ④ 13:00~13:30 読み聞かせ
- ⑤ 14:00~14:30 マジック

この他、手作りおもちゃ・落書きコーナーなど、内容は盛りだくさんです。ぜひ「子どものひろば」をご利用ください。ご来場、心からお待ちしております！

(2) ポスターのデザイン

本年度、ポスターのデザイン製作を、一般団体の雅象彩絵高輪支部・藤原雅予さんをお願いしました。藤原さんは、昨年度リーブラ展示企画で、パープルリボンを取り入れた見事な押し花作品を提供してくださり、その後もリーブラ事業に積極的に関わってくださっています。そんな藤原さんにインタビューしてみました。

①デザインへの思いをお聞かせ下さい。

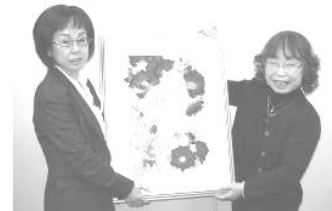
デザイン画製作依頼をうけて、まずテーマ(女と男 しあわせへの近道はここから)から女(心)と男(心)を象徴的にハートに立ててセンターに配置しました。心と心、みんながつながっていくことが、しあわせへの近道であると考え、リーブラのテーマカラーであり、女性への暴力の根絶を訴える啓発活動の象徴である【パープル】のリボンでハート(人)を結んでいます。背景は港区の花である「バラ」を使用しました。これらのバラは、バラの専門家が育てたものや、八ヶ岳のバラ園からとりよせ、大切に保管していた、こだわりの素材です。

②リーブラ事業に参加して

一般団体として「押し花教室」の活動をしていましたが、昨年のDV展示でリーブラ事業にたずさ

わったことがきっかけで、人として当たり前と思っていた「男女平等」が、言葉に出して伝えないと伝わらないということに気がきました。そして「心」の教育の大切さ、必要性を強く感じ、そのことを子育て世代の皆さまに、自分の活動を通してぜひ伝えていきたいと思うようになりました。この思いは長い間、心の底にあったのですが、リーブラ事業に参加することで自分の中で意識化されました。

リーブラ事業への参加者・協力者が増えていくことは、センターにとって、何より大切なことと考えています。みなさんに、どんなかたちで男女平等推進に参画していただくか、またセンターの活動と共通の目的を見出すことができるかが、新しい協力者を増やしていくための、課題であると改めて認識しました。



押し花のデザイン画を受け取る
横井館長と雅象彩絵高輪支部
藤原雅予さん

3. 講座案内 (1) ストップ性暴力! STAND! 2回連続講座 ~私たちにできること・性暴力被害を防止するために~

平成23年度 港区リーブラ パワーアップ事業です。講座・写真展ともにご参加出来ます。

■第1回「性暴力被害の実状を知る」

7/3(日)13:00~16:30

講師：大藪順子さん(在米フォトジャーナリスト)
井上摩耶子さん(フェミニストカウンセラー)

会場：リーブラ5Fホール
参加費：1,000円、学生500円
申し込み：要(先着150人)

◆保育・手話

申し込み：要

申し込み期限：第1回 6/25(土)まで
第2回 7/9(土)まで

【保育】

対象年齢：1歳~未就学児
料金：100円

【手話】
料金：無料

■第2回「医療の現場から性暴力被害を考える」

7/16(土)13:30~16:00

講師：加藤治子さん(性暴力救援センター・大阪SACHICO代表・産婦人科医)

会場：リーブラ集会室1,2,3
参加費：800円、学生500円
申し込み：要(先着70人)

※空き状況によっては当日参加も可能です

(2) 初公開!

大藪順子写真展

「STAND 性暴力サバイバーたちの素顔」

日時

7/1(金)12:00~21:00

7/2(土)9:00~21:00

7/3(日)9:00~12:00★

7/4(月)9:00~18:00

会場：リーブラ学習室E

★7/3(日)13:00~16:30は

リーブラ5Fホールに展

参加費：無料 申し込み：要



申し込み/お問合わせ：NPO男女平等参画推進みなと(GEM)

電話：080-4354-3710 FAX：03-3472-5787

e-mail：gem-minato@kif.biglobe.ne.jp



性暴力被害は、今まで加害者より被害者が責められることが多く(レイプ神話)、恥ずかしいこととして闇に葬られてきましたが、勇気を出して語り始める人が出始め、決して個人的な問題ではなく、社会的な問題だと認識されるようになり、支援や取り組みが広がりはじめています。講座では在米フォトジャーナリスト大藪順子さんから性暴力被害者の痛みとはどんなものか、どう回復に繋がったのか、ご自身のレイプ被害の体験を通して語ってまいります。井上摩耶子さんからは性暴力とはどういうことなのか、なぜ潜在化してしまうのか、回復には何が必要なのか、加藤治子さんにはSACHICO=性暴力危機治療的介入センター・大阪の活動から当事者の視点に立った総合的支援のあり方をお話しいただきます。

写真展「STAND 性暴力サバイバーたちの素顔」は、同じように傷つき、生きていく人たちの姿を伝えたいと、大藪さんが男女70人を約2年かけてアメリカとカナダで撮影、取材した作品からの20枚に加え、今回日本人サバイバーの写真6枚が展示されます。本邦初公開です。

4. 講座報告

(1) 「女性の人生と妊娠をめぐる葛藤—選択する、しない、できない—」

昨年の5月に開催した「著者が語る話題の本」講座の『妊娠—あなたの妊娠と出生前検査の経験をおしえてください—』での「今後もテーマとして取り上げてほしい」という参加者の要望を踏まえ、4月26日(火)(19時~21時)に、女性の健康・身体をめぐる問題の中で「妊娠」に関する講座を開催しました。

妊娠は、仕事、結婚、子育て、住む場所の選択だけではなく、生殖医療の進展により、それらを使うか使わないかの選択も必要になるなど、女性に重い選択を突きつけることがあり、多くの女性たちは不安と葛藤を抱えています。

講師の明治学院大学教授の柘植あづみさんは、国内外の妊娠に関する当事者及び提供者、医療者に対して豊富な調査研究をされてきており、現在、妊娠をめぐる複雑化している「選択」をキーワードにして、女性が直面している「選択」することの難しさと、葛藤についてお話していただきました。

講座では、何事も「選択」することが基本のアメリカと比較して、日本は「選択しない」という「選択」が多くみられること、女性に決定権が確立されていないことなど、現在、女性が直面している「選択」することの難しさとその原因について理解することができました。

講座の参加者は30代から40代の方が中心で、今回初めてリーブラの講座に参加した方が74%。講座後のアンケートでは、講座内容に関して大変満足・満足が70%でした。今後は参加者同士でこの問題を共有し、各自の「選択」について考えを深めることができる場も作っていきたいと思います。



講師の柘植あづみさん

(2) 平成23年度パワーアップ事業 連続講座「おんなからおんなへ つたえるもの、のこしたいもの」

連続講座「おんなからおんなへつたえるもの、のこしたいもの」を4月9日(土)、16日(土)に行いました。

第1回は「海岸通団地物語~そして、女たちの人生はつづく~」の上映と杉本暁子監督からこの作品と団地の方々とのお話、ご自身の変化について、映画製作への想いを率直に語っていただきました。登場された方々の魅力、丁寧に暮らす様子を映し出した監督の今後の作品に期待する意見が多くありました。

また、独居の方で入院されたが親族以外は知ることができずに亡くなる時に関われなかったという話もあり、交流があっても難しい現状を知りました。

第2回は女の空間NPOの町田美千代さんによる女と遺言ワークショップ「わたしが遺したいもの、遺したくないもの」では、普段話さないテーマで話しあい、自分が何を大切に、誰に伝えたいかを考える機会となりました。

主催：特定非営利活動法人ヒューマンサービスセンター



5. 平成23年度 第1回 利用者交流懇談会

5月13日(金)、14日(土)リーブラ一般団体および推進団体の皆さんにご参加いただき、交流懇談会を実施しました。13日(金)夜間61団体、14日(土)午前中31団体、2日間で約90名の参加がありました。

リーブラからは、センターの運営方針、22年度の事業報告、23年実施予定事業の説明、利用者アンケートの結果報告を行いました。その後、リーブラ藤田コーディネーターによる「楽しく学ぶ男女平等参画クイズ」を実施。コーディネーターの出題に対して、参加者がグループごとに分かれ話しあって答えを出しました。



藤田コーディネーターによる「楽しく学ぶ男女平等参画クイズ」一問一問、データをそろえ丁寧に作った渾身の出題です！

リーブラ藤田コーディネーターによる「楽しく学ぶ男女平等参画クイズ」

出題①内閣府による「女性に対する災害対応指針」の避難所等における好事例として正しいものを次の三つの中から一つ、選んでください。

- ①避難所では節電のため電気をこまめに消す。
- ②女性は食事の支度、男性は食料の調達だけをする。
- ③外から見えない女性の下着の洗濯物干し場を作る。

出題②東京連合婦人会の団体設立にあたって中心となった女性団体の活動拠点は、関東大震災前、どの区にあつたでしょうか？

- ①港区 ②文京区 ③台東区



グループで答えを話し合い

出題③港区の人口は、平成23年4月現在、女性は110240人、男性は96231人で、女性人口が男性人口に比べて多いことでも特色があります。いつから女性が男性より多くなったのでしょうか？ 次の中から一つ選んで下さい。

- ①1991(平成3)年頃
- ②1971(昭和46)年頃
- ③1951(昭和26)年頃

出題④100年前、港区生まれ、もしくは港区在住で「青鞥」にかかわった女性は何人いたでしょうか？ 次の中から一つ選んで下さい。

- ①1人 ②5人 ③11人

出題⑤「青鞥」には、港区にゆかりのある男性支持者も存在していました。次の中から一人選んで下さい。

- ①馬場孤蝶 ②斎藤茂吉 ③福沢諭吉

正解は次回リーブラ便りに掲載。リーブラ3階 掲示板にも掲載。

今後も交流会をさらに有効なものにするため、工夫を凝らしていきたいと思っております。

6. 運営協議会

運営協議会委員より

運営協議会では、男女平等参画に関する港区の拠点であるリーブラをどのように運営していくのか、などが話し合われており、12人中男性が2人です。男女平等参画の活動にかかわりをもつのは、女性が圧倒的に多いため、リーブラ及び運営協議会では、一般社会とは少し違う形で男女平等が進行していると思います。男性の私には違和感を覚えることが度々あります。その違和感は、女性が感じてきた「不平等」の1つなのかもしれないと思うことがあります。港区とリーブラは私が深くかかわっている場所です。一運営協議会委員として、男女が平等に参画できる社会の実現に寄与できるよう努力するとともに、学び続け、考え続けることを大切にしたいです。

運営協議会委員 菅 賢太郎

平成23年度 第2回運営協議会

5月19日、運営協議会が開催されました。

【議題】

- (1) 報告事項
 <港区より>
 ①運営協議会年間スケジュールについて
 ②共催事業について
 <リーブラより>
 ①4月の事業報告
 ②フォーラム進捗状況・寄付金について
 (2) 協議事項
 フェスティバルについて
 (3) その他

- ・節電について、港区で正式に協議する組織が立ち上がりました。現在のところ、夏期まとまった閉館は予定しておりません。
- ・昨年からの課題、2月のフェスティバルについて協議し、実行委員の位置づけや運営方法を整理しました。団体の皆様には、7月下旬にご提案する予定です。

7. リーブラ相談室

心のサポートルーム便り

「どんなことでも相談できますか？」——相談室への最初の電話に、このように聞いてこられる方は少なくありません。リーブラ相談室では、基本的にどのような相談でも受け付けています。例えば、家族や職場での人間関係、自分の生き方、働き方、なかには離婚やドメスティック・バイオレンスなど、相談される方の抱える悩みはさまざまです。ひとりで悩まないで、まずはお電話ください。より良い方向が見出せるように、有資格のカウンセラーが専門的見地からサポートします。

<開室曜日・開室時間>

火曜日 16:00～20:00
 水曜日 10:00～16:00
 金曜日 10:00～16:00
 金曜日 18:00～21:00

03-3456-5771 (専用)

※ご予約やお問い合わせも
 専用電話にご連絡ください。

8. 男女平等参画情報 ～女子学生の就職 2011～

現在、来年大学卒業予定者の就職活動が本格化しています。近年の雇用情勢の悪化傾向は、今年度も続いており、特に、女子学生の置かれている状況は厳しいようです。5月24日発表の厚生労働省と文部科学省による22年度大学等卒業者の就職率では、全体は、90.8%（前年度1.1%減）ですが、男女別では、男子学生が91.9%（前年度1.0%減）に対して、女子学生の就職率は89.7%（前年度1.2%減）でした。中間報告のあった2月時より男女差は縮まりはしましたが、経済の悪化が女性たちを直撃していることがみとれます。しかし、女性は雇用の調節弁であってはならず、募集・採用時の性の違いによる異なる取り扱い、男女雇用機会均等法に違反しています。

しかもこのような厳しい就職戦線乗り越えた女子学生の前には、就職後、賃金差別、セクシュアル・ハラスメント、妊娠・出産等を理由とした不利益取り扱い、母性健康管理、配置・昇進・降格・教育訓練・福利厚生に関する差別的取り扱い、育休切りなどの問題が立ちはだかつており、仕事と家庭の両立は依然として困難な状況です。平成21年度に都道府県労働局雇用均等室に寄せられた、男女雇用均等法に関する相談は23,301件ありました。均等法があっても性差別があとをたたく、育児・介護休業法があっても実際には利用しにくい、この状況をどうしたら私たちは変えていくことができるのでしょうか。



男女平等参画センター「リーブラ」3～5階

発行元	港区立男女平等参画センター リーブラ
住所	〒108-0023 港区芝浦3-1-47
TEL	03-3456-4149
FAX	03-3456-1254
HP	http://www.minatolibra.jp/
施設利用時間	月～土曜日 9:00～21:30 日曜日 9:00～17:00 * 祝日はその曜日に合わせての開館となります。
窓口受付時間	月～土曜日 9:00～20:00 日曜日 9:00～16:00

発行日: 2011年5月25日